

各部企画展示

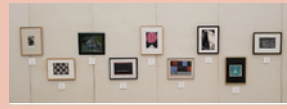
絵画部

「新しい眼」― 若手作家の挑戦状 ―
 全国7ブロックから推薦された作家たちによる企画展。2階 絵画部企画会場
 ・出品者によるギャラリートーク 5月1日(水)午後1:00～



版画部

「版画部会員有志による小品展」
 太子額限定の小品展。3階 版画部展示室



工芸部 「柚木沙弥郎作品特別展示」

74年間国画会に在籍、多方面で活躍された柚木沙弥郎年功会員の作品を特別展。3階 工芸部展示室

写真部

「第3回小中学生フォトフェスタ」
 日本全国から寄せられた200名弱の小中学生の選りすぐりの作品を展示。2階 写真部展示室



応募者作品

関連行事

第98回国展 シンポジウム

国画会が活気ある団体として存続していくため、また明日の国画会に向けて何をしていけば良いのかを議論していきます。後日配信予定です。
 5月2日(木)午後1時～午後4時30分 3階 講堂
 ※定員を超えた場合はご入場いただけません



第18回トークイン

「聞こえますかアートの声」
 5部門各会場にて、作品を前に作者と一般参加者が対話していく鑑賞会です。詳細は国展HP「トーク作家紹介」を参照。 ※事前申込制 3/1～4/10
 5月5日(日)午後1時30分～3時40分 各部展示室



自然保護・社会福祉のための チャリティー販売

国展会期中に国画会5部門の有志による作品の販売をおこない売り上げを寄付しています。
 3A展示室奥(彫刻部のみ1D奥)



国画会の沿革と先達の紹介

国画会の成りたち

1918年(大正7年)文展から自由な制作と発表の場を求めて、京都の青年日本画家小野竹喬、土田麦僊、村上華岳、野長瀬晩花、榊原紫峰、入江波光らは在野としての「国画創作協会」をおこし、その定期展の通称を「国展」とした。

創立宣言・・・「各自ハ各自ノ自由ノ創造ヲ生命トス」

「芸術ノ創作ハ極メテ自由ナラザル可カラズ」

「本会ハ創作ノ自由ヲ尊重スルヲ以テ第一義トナス」

同協会は1925年(大正14年)土田麦僊と交流のあった梅原龍三郎を招き、さらに川島理一郎を加え第1部を日本画部とし、第2部として洋画部(現絵画部)を設置した。(翌1926年が第1回国展に相当)そして1928年(昭和3年)国画創作協会の解散に伴い、第2部は名称を「国画会」として独立し、定期展の通称「国展」もそのまま継承した。

草創期の国画会の果たした在野団体としての役割は、福島繁太郎の影響もあり、毎年のようにマチス、ボナール、ロダン、プルーデル、バーナード・リーチ、ルオー、モネ、ルノワール、シャガール、ピカソ、セザンヌ等々諸外国の優れた作家たちの作品を特別陳列して世に広く紹介したことが特筆される。この事は内部的に研鑽の資となったのは勿論、対外的にも海外作品に触れることの少なかった当時の美術界には非常に有益な企画でもあった。

以後、絵画部に版画部・彫刻部・工芸部・写真部を加え、5部による美術団体として、毎年「春期」に日本最大級の公募展である「美術の春・国展」を開催。創立精神である「創作の自由」をモットーに、個性を重視し多様化する表現様式と新しい世代にも呼応する総合美術団体として、広くファン支持を得ている。そして2007年(平成19年)に創立以来の会場であった都美術館から、国立新美術館(東京・六本木)へ移り、2016年(平成28年)には90回記念国展が盛大に開催された。

最近の企画から

《1997年～》国展会場にて「自然保護・社会福祉のためのチャリティー」《2006年》パネルディスカッション「80回までの各部の変遷と国立新美術館における「表現の可能性」について」《80回記念国展キャンペーン「国展を歩く」記念誌「国画会80年の軌跡」刊行/諸記念展開催(「国画会の画家たち展」・「伝説からの旅立ち展」等)《2007年～》国展トークイン「聞こえますか アートの声・作者の声 作者の心」《2016年》90回記念国展「90 vs 90+展-見よ国展の底力-」《2016年～》国展シンポジウム開催
 ※戦争激化のためやむなく中止した1945年(昭和20年)、新型コロナウイルスの影響により中止した2020年(令和2年)、展示中止とした翌2021年(令和3年)を除く。

1970年頃の梅原龍三郎 (集英社現代日本美術全集より転載)

近代日本美術の先達

下記に掲げる作家は近代日本美術の先駆者として活躍した先達であるが国画会においても大いに活躍し、またその後内外に多大な影響を及ぼしたことでも知られている

絵画部 梅原龍三郎 川島理一郎 山脇信徳 大橋孝吉 榊貞雄 河野通勢 高村光太郎 難波田龍起 宮坂勝 高橋達四郎 宮田重雄 柏木俊一 久保守 武者小路実篤 益田義信 山口薫 青山義雄 庫田菱 杉本健吉 土田文雄 香月泰男 山崎隆夫 国松登 林重雄 伊藤康 宇治山哲平 曾宮一念 川口軌外 原精一 須田勉太 井上三綱 松田正平 里見勝蔵 小泉清 張替正次 彼末宏 小牧源太郎 藤田吉香

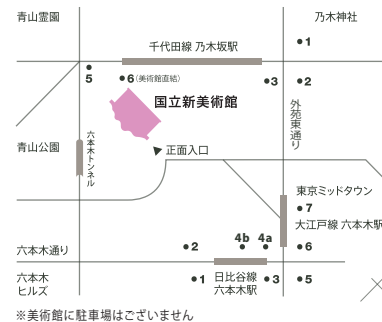
版画部 平塚運一 恩地孝四郎 川西英 川上澄生 棟方志功 畦地梅太郎 関野肇一郎 山口源 笹島喜平 齊藤清

彫刻部 金子九平次 清水多嘉示 柳原義達 新海竹蔵 山本豊市 関谷充 千野茂 桜井祐一 茨木敬夫 鈴木実

工芸部 富本憲吉 柳宗悦 濱田庄司 バーナード・リーチ 芹沢銈介 河井寛次郎 柳悦孝 松木道忠 柳悦博 黒田辰秋

写真部 野島康三 福原信三 木村伊兵衛 中山岩太 北角玄三 西山清 入江泰吉 吉川富三 清水武甲 村島隆

国画創作協会創立当初の顔ぶれ 前列中央 小野竹喬 中列左から 村上華岳、野長瀬晩花、土田麦僊 後列左から 中井宗太郎、榊原紫峰



会場 国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

午前10時～午後6時(但し入場は閉館の30分前迄 最終日午後2時閉会)

アクセス

- ・東京メトロ千代田線乃木坂駅 青山公園方面改札6出口(美術館直結)
- ・東京メトロ日比谷線六本木駅4a出口から徒歩約5分
- ・都営地下鉄大江戸線六本木駅7出口から徒歩約4分

巡回展 名古屋展 愛知県美術館ギャラリー

午前10時～午後6時(但し入場は閉館の30分前迄 最終日午後4時閉会)

〒461-8525 愛知県名古屋市中区東栄1丁目13-2 愛知芸術文化センター 8階



www.kokuten.com



× @KOKUGAKAI



KOKUGAKAI



KOKUGAKAI

国画会事務局

〒105-0013 東京都港区浜松町2-1-16 北田ビル4階

TEL/FAX 03-3438-1470 info@kokuten.com

98th 国展

美術の春

絵画
版画
彫刻
工芸
写真

国立新美術館 (東京・六本木)

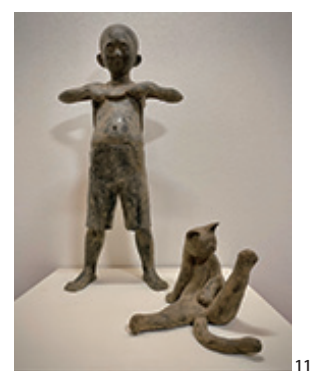
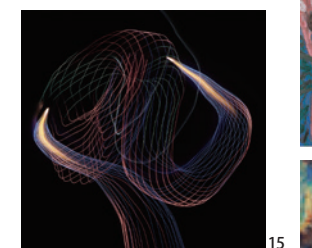
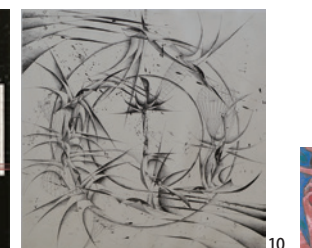
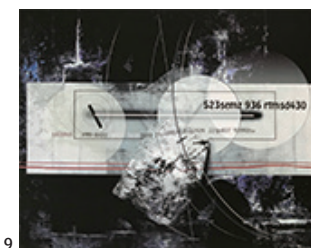
展示室 1A、1B、1C、1D、2A、2B、2C、2D、3A、3B 野外展示場 A、B、C、D

2024年5月1日(水)～5月13日(月)

午前10時～午後6時(入場は閉会の30分前まで) ※5月7日(火)休館
 最終日午後2時閉会(入場は閉会の1時間前まで)

一般入場料 ¥1,000 無料日 5月9日(木)

学生及び20歳以下、または障がい者手帳をお持ちの方は無料
 ※ご来館の際に開館日時等最新情報は国立新美術館のホームページでご確認ください



【絵画部】 1. 大沼映夫「白彩降臨 多少のずれ」 2. 大沼蘭「もりはきている1 The Forest Is Alive」 3. 増田直人「すべてを体験せよ。生き続けよ。奇跡も魔法もあるんだよ。」
 4. 松山俊彦「永劫」 5. 宮本薫「いとち菓子」 6. 森川勝栄「春のいたずら」 7. 安原容子「楽園のリンゴ」 8. 山本美佐子「残日抄」
 【版画部】 9. 太田策司「座標"place-6"」 10. 内藤克人「飛ぶかたち～旋回～」 【彫刻部】 11. 鈴木琢磨「つながりのしるし 2024」 12. 古川敏郎「春の別れ」
 【工芸部】 13. 笠原博司「紫根・茜染経綵織着物「瞑想する花 Flower for meditation」」 14. 松田共司「白泥掛マンガン筒壺」 【写真部】 15. 平沼和子「装い」 16. 永嶋綾子「刻」

主催 国画会

後援 NHK厚生文化事業団

日本自然保護協会

巡回展 5月21日(火)～26日(日)

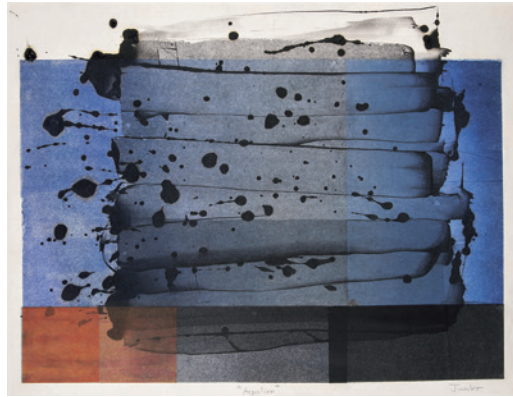
名古屋展 愛知県美術館ギャラリー

第97回国展(2023年)受賞作品一覧

準会員の賞



1



2



3

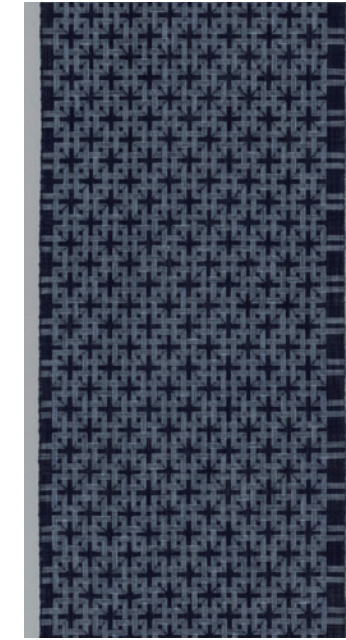


4

準会員優作賞

1. 絵画部 池田愛花里『眠るように消えたい』 2. 版画部 佐々順子『Aspection』 3. 彫刻部 杉崎那朗『僕の神話』 4. 工芸部 牧野弘樹『錫帯手篭』

国画賞



11

8. 絵画部 成田淑恵『夢見る夢』
9. 絵画部 萩原優
『ヘルワ ヤ パラディ-Oh! my beautiful hometown-』
10. 版画部 SHOKO『この惑星の生命の瞬き I』
11. 工芸部 西川知余『繋がり』



5



6



7

各部の賞

5. SOMPO美術館賞
絵画部 梅田勝彦『FACE』
6. 版画部準会員奨励賞
版画部 奥秋広美『AREA 2355』
7. 彫刻部準会員T氏特別賞
彫刻部 片岡千明『情動』



8

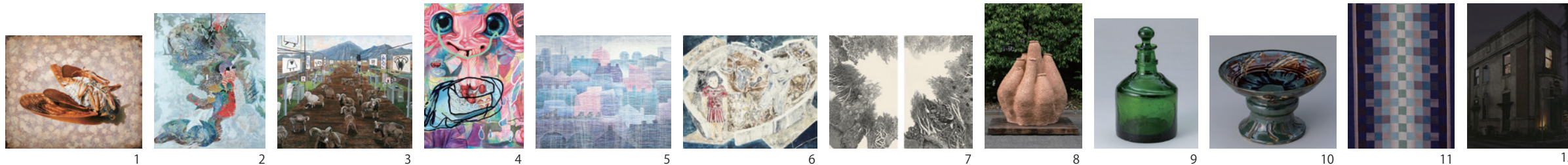


9



10

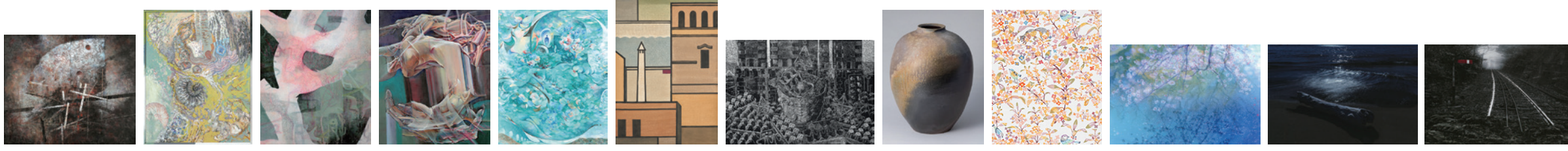
新人賞



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

- | | |
|---|---|
| <p>絵画部</p> <ol style="list-style-type: none"> 大原壽彦『路傍の虫』 京フサ子『2023-共存 A』 久留島江那『求める人物像』 堤千春
『素直で明るい、いい子でいなきゃ!』 新野裕美『紐う-近くて遠い-』 <p>版画部</p> <ol style="list-style-type: none"> 葛西祐子『Go find V』 わたなべ淑子『地中より呼びぐしてI』 | <p>彫刻部</p> <ol style="list-style-type: none"> 早川信志『産声』 <p>工芸部</p> <ol style="list-style-type: none"> 太田潤『緑モール首巻き栓付瓶』 仲村まさひろ『1尺1寸オー
グスヤ-アメ指描菊花文高杯』 葉山孝子『響き』 <p>写真部</p> <ol style="list-style-type: none"> 堀江孝子『古えの灯り』 |
|---|---|

会友賞



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

- | | |
|--|---|
| <p>絵画部</p> <ol style="list-style-type: none"> 阿部敏彦『異形の世界-1』 中嶋由美子『地の声を聞く I』 長谷川敦子『古代へ想いを寄せる 2』 吉沢信幸『物質の夜 X』 吉野易子『想・夢の続き(I)』 <p>版画部</p> <ol style="list-style-type: none"> 石川敦之『群空間 II』 福地秀樹『生成 2』 | <p>工芸部</p> <ol style="list-style-type: none"> 佐々木泰男『焼締め大壺』 廣瀬満希子『秋のうた』 <p>写真部</p> <ol style="list-style-type: none"> 一宮美穂『うたかたの恋』 大橋正彦『月の光』 小島浩晴『失われた希望』 |
|--|---|